

第1章 本事業のアウトライン

1-1. 本事業の目的・内容

(1)業務目的

尚巴志とは、15世紀に三山を統一し、琉球王国・第一王統を成立させた琉球史の偉人である。南城市佐敷の出身とされ、この地を基盤に政治的な勢力を強めていき、最終的に琉球王国の繁栄の基礎をもたらした。しかしこれまで南城市では、尚巴志ハーフマラソン等を除いて「尚巴志」というキーワードが十分に活かされてこなかったため、尚巴志を活用すべきという声が高まっている。

そこで南城市は、沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）を活用し、地元の英雄・尚巴志を人材育成や文化振興、まちづくり、観光振興等に活かしていくための基本的な方針と行動計画を示したマスタープランを平成25年度に策定し、26年度以降に随時実施していきたいと考える。

本業務は、尚巴志に関連する資源調査や事業シーズの抽出を幅広く行い、効果的な庁内調整や市民参画の手法を用いて、上記マスタープランを立案・審議・決定することを目的とする。

(2)業務内容

①尚巴志関連資源・ニーズの状況調査・評価

尚巴志の功績や人物像等を文献・史料等より整理するとともに、尚巴志に関連する資源を広くとらえて、事業化可能な要素を整理・評価する。また、市の計画での関連事項を整理し、尚巴志関連でこれまでに市へ要望のある事項、今後市へ要望のありそうなことを把握するなどニーズ調査もあわせて行う。

- ①尚巴志のシーズ調査・評価
- ②尚巴志のニーズ調査・評価

②全国的な類似事例の情報整理

マスタープランの検討材料とするため、全国の歴史上の人物や偉人を活用したまちおこし等の事例を収集し、有効な情報を整理する。

③市民参加ワークショップ等の開催

尚巴志活用のアイデアを募集するとともに、事業実施段階での協力体制を築くために、南城市民から参加者を募り、ワークショップを開催する。

④尚巴志を活用した事業方針の検討

上記（1）～（3）を受けて、事業の必要性や性格づけを行い、尚巴志を活用した事業計画の方針を検討する。

⑤マスタープランの検討

庁内関連部署の計画的な位置づけや意向も踏まえながら、尚巴志を活用したマスタープランの体

系図を作成し、具体的な事業計画及び推進体制、エリアマネジメントの考え方を位置づけ、スケジュールと役割分担が示されたロードマップを作成する。

⑥市民周知シンポジウムの開催

上記の成果を市民に周知し、尚巴志まちづくりの気運を盛り上げるために、歴史上の人物に焦点を当てたまちづくりの実践者、尚巴志や南城市に精通した識者等を講演者として、シンポジウムを開催する。

1-2. 検討体制について

本業務では、市役所の若手職員からなるクロスファンクション会議と市民ワークショップで、まちづくりワークと話し合いを重ね、マスタープランに関わる各トピックの検討を行った。また、クロスファンクション会議と市民ワークショップの内容は、有識者で結成された検討委員会でチェックとフィードバックの意見を求め、計画内容をその都度検討した。

①市民ワークショップ

市民に案内し、尚巴志スピリットの拾い出し、事業アイデアの掘り起こし、マスタープランの理念の検討などのワークを行った。

②庁内クロスファンクション会議

南城市役所庁内の関連する部署の担当者を集めた会議であり、名称は部門横断組織を意味する。若手担当者の政策立案・実施能力を鍛えるとともに、マスタープランの作業部会的な役割を位置付けた。

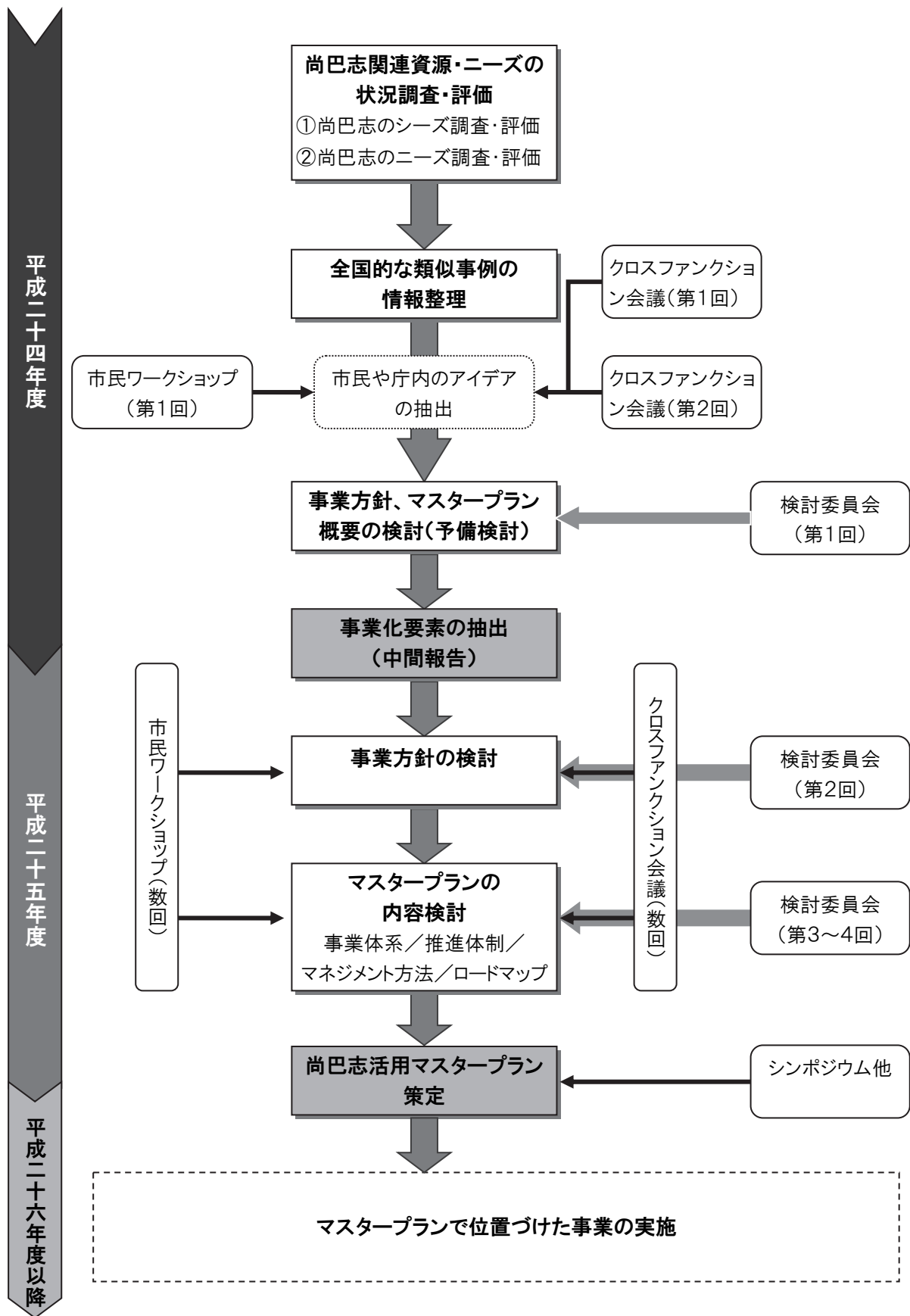
③検討委員会

検討委員会では、市民ワークショップや庁内クロスファンクション会議をうけ、尚巴志を活かしていくための基本的な方針と行動計画について必要事項を審議・検討し、マスタープラン案を検討・承認する機関として設置した。計4回開催した。

検討委員名簿（所属は就任時）

名前	所属
浅野 誠	沖縄大学 特任教授
小野 尋子	琉球大学工学部 准教授
波多野 想	琉球大学観光産業科学部 准教授
上地 哲	(株)仲善 代表取締役社長
石田 俊輔	なんじょう地域デザインセンター センター長
後藤 亜樹	環境教育プランナー
上里 隆史	歴史研究家

事業フロー図



各会議の役割・位置づけ

